

平成31年一番茶萌芽宣言

—平成31年一番茶萌芽と防霜対策の徹底について—

平成31年4月5日
京都府農林水産技術センター
農林センター 茶業研究所

1 本年の一番茶萌芽宣言

2月の平均気温が平年と比べ高く推移したものの、3月の平均気温が平年並で推移したことから、平成31年の一番茶萌芽宣言は、平年並の4月5日となりました。

◆萌芽宣言：前年、平年との比較

本年	前年	前5か年平均	平年
4月5日	4月3日	4月3日	4月5日

平年：平成6年から平成30年までの25年間の平均

◆本年の気象推移（図2参照）

【平均気温】

1月は概ね平年並で推移し、2月は高い傾向であった。3月は概ね平年並で推移した。

平年差

1月：-0.1℃、2月：+1.0℃、3月：+0.3℃

【降水量】

1月から3月末にかけて、降水量は少ない傾向であった。

平年比

1月：21%、2月：43%、3月：40%

★お茶の『萌芽』

春になると、包葉の中から芽が伸びてきます。芽の先端が包葉の約2倍に達した状態（図1参照）を『萌芽』としています。

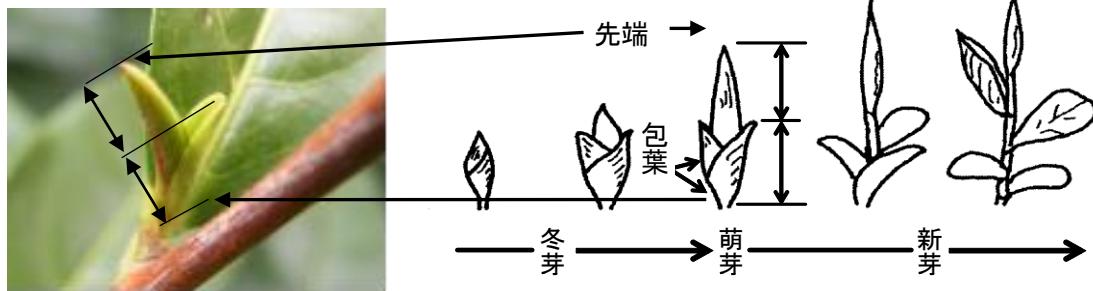


図1. 左：『萌芽』したお茶の芽 右：冬から春にかけての茶新芽の動き

★「萌芽期」と萌芽宣言

萌芽した芽の割合が70%に達する時期を「萌芽期」と言います。萌芽宣言は、当所作況園の萌芽調査結果から「萌芽期」を予測して、日付を決定しています。

2 防霜対策の徹底

特に移動性高気圧に覆われる日は、夜間の冷え込みが厳しくなり晩霜に見舞われる危険性が高くなります。毎日の気象情報を確認し、**霜注意報**や**予想最低気温**に注意して防霜対策を徹底してください。

◆主な対策

- (1) **防霜ファン**：使用前に点検を済ませ、設定温度3℃を目安に稼働
- (2) **棚被覆**：翌朝の降霜が予想されている日の夕方に行う
- (3) **スプリンクラー散水**：使用前に点検を済ませ、摘採面温度2℃を目安に稼働

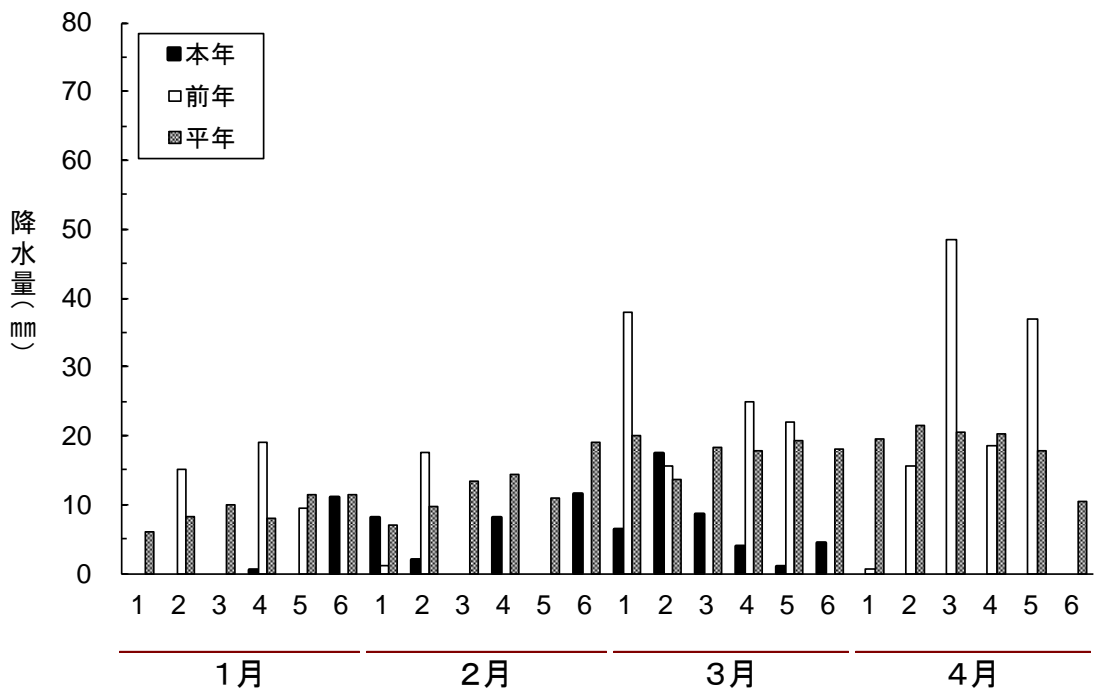
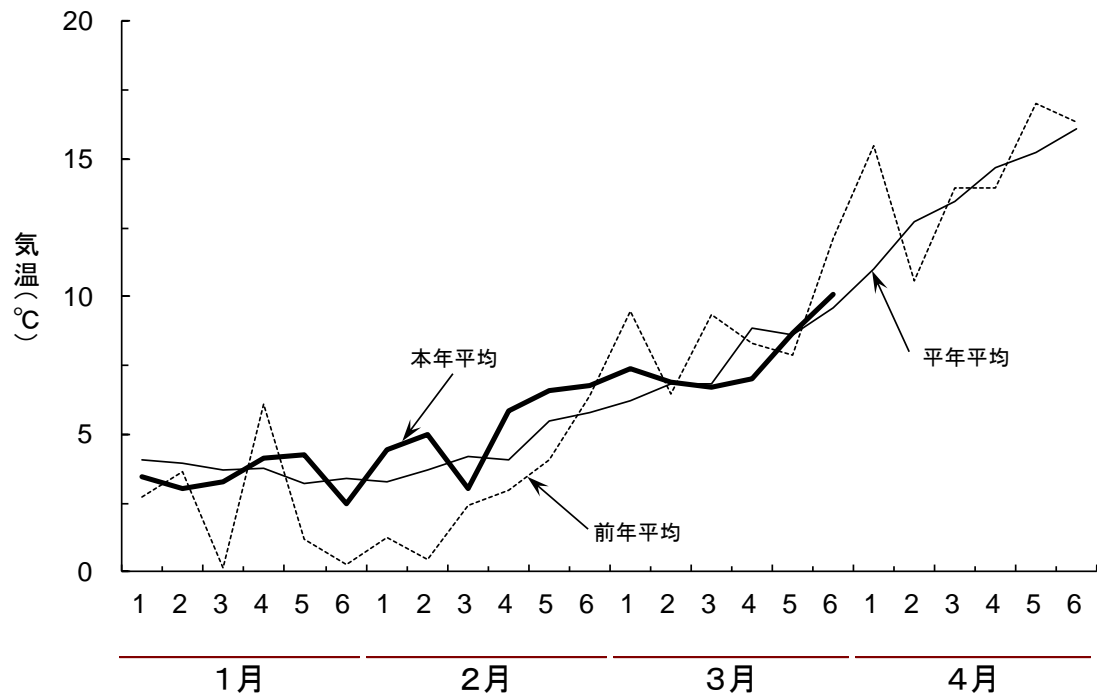


図2 平成31年冬季～春季の気象推移(平均気温、最低気温)、降水量

注1) 平年値は、平成6年から平成30年までの平均値(25年間)、自動気象観測装置のデータから平年値を算出
 注2) 観測場所は、農林センター茶業研究所(宇治市白川中ノ菌1番地)